

## <唐辛子の実証栽培について>

レポート作成者：農業委員会事務局 黒崎

平成27年度から出雲崎町農業委員会では有害鳥獣対策として、イノシシ被害を受けている田んぼに隣接する畑で「唐辛子」の作付けを行っている。唐辛子には「カプサイシン」という辛味成分があり、イノシシ等の野生動物がこの臭いに反応し嫌がって近づかない習性があるという。そこでイノシシ避けとしてどのような効果が見られるか実証栽培を通し検証を行った。

平成28年度から農業委員会事務局に配属になり、農家の生まれでもなく、農業経験と言っても小学校の授業で育てたジャガイモや家庭菜園の手伝い程度しかなかった。とりあえず必要な資材や栽培方法を調べ、挑戦してみることにした。

材料は次のとおり

- ・鷹の爪の苗を 180 本(JA から購入)
- ・牛糞堆肥と肥糧、石灰(ホームセンターから購入)
- ・その他、いぼ竹(支柱)、マルチング用の黒いフィルムなど

日常生活等で畑の付近に行くことがあると、白いものが点在して不思議に思っていたが、「石灰」は土質を中性にするためのもので、苗など未成熟時にはやさしい環境になって腐食しにくくなる。黒いフィルムは作付けをするラインである「畝」の上に敷くことで雑草等が生えにくくなり、苗への悪影響を防いでくれる。

最初、牛糞堆肥が肥料であると勘違いしていた。牛糞堆肥は土をフカフカにし、作物の根にもやさしく、水の吸収もしやすくなる。

材料もそろったところで、早速、畑作りを行うため草刈を行った。



イノシシ被害を受けている田んぼの全景(豊橋地内)

----- は唐辛子を植える予定のライン



## 1. 畑作り

5月中旬、農業委員と共に畑作りを行った。牛糞堆肥、肥料、石灰を播きながら小型耕運機で耕し、畝を作り、最後は黒フィルムでマルチングを行った。普段桑などは持つこともなく、慣れない動作なので体が痛くなった。連作障害を懸念して、昨年度より少し田んぼ側に畝を作った。



〔堆肥等を播きながらの耕うん作業〕



〔マルチング作業〕



〔畝作り〕



〔マルチング作業後の補正〕

## 2. 植付け

5月下旬、植付、支柱建てを行った。まず、マルチングに穴をあけた。まだ苗なので折れやすいため、ポットから移し植付する際は丁寧にいき、肥料は根腐れを起こさないようよく土と混ぜ合わせた。そのあと支柱を建て、1箇所程、紐で固定した。



〔植付〕

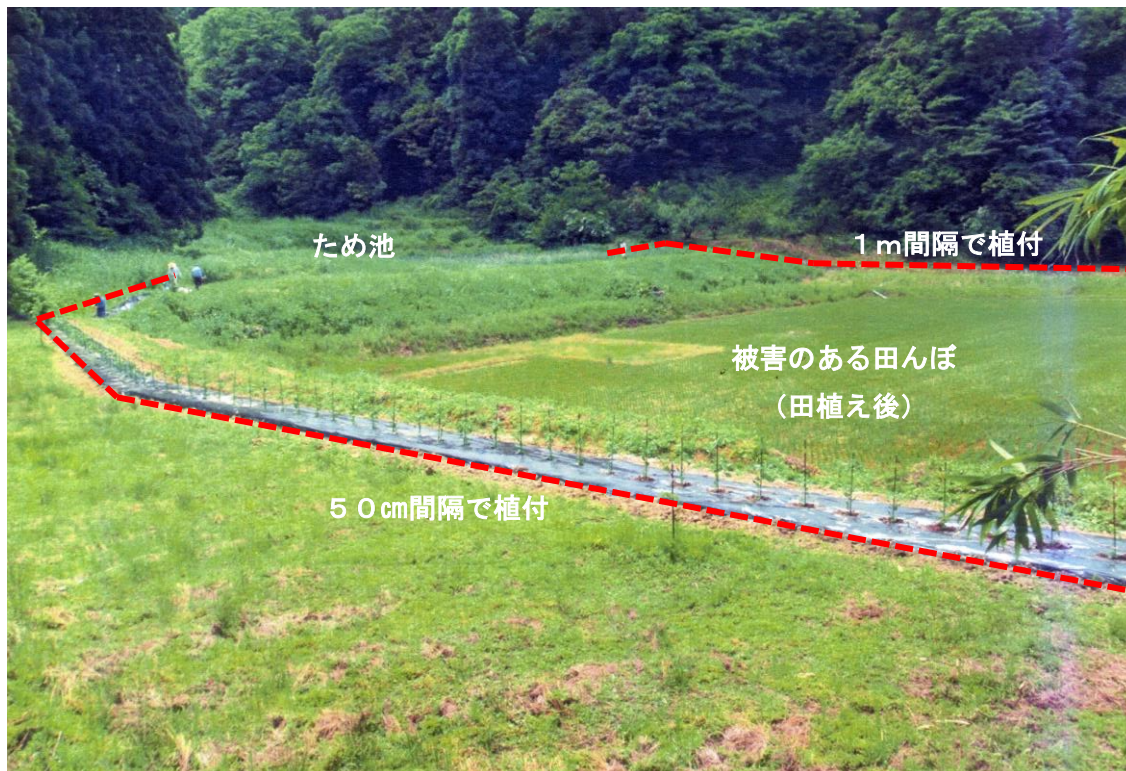


〔支柱を建て紐で固定〕



植付等は比較的簡易な作業であった。株間でのイノシシが寄ってくる違いを確かめるため、50cm間隔と1m間隔のラインの箇所に分け植付した。写真にため池の箇所の区間があるが、通過して進入できないと思われ、植付は行わなかった。このたびは田んぼを「コ」の字に囲うイメージとした。

しかし、風の強い場所である。苗が折れないか心配だ。



〔植付の全景写真（一部省略）〕

### 3. 生育の過程

唐辛子は暑さに強く、あまり水もいらないと言われている。ここからは、たまにやる農業委員に手伝っていただく草刈以外はほぼ一人で整枝や追肥(7月に1回実施)、を行い、やはり心配なので最低でも3日に1回は水やりを行った。

6月中旬になると白い花が咲き下旬頃には生育の早いものは実が付いてきた。

水やりは近くの用水に水が流っていたときは、少しいただいて播いていた。水がないときは水道水をタンクに入れ持っていく播いた。

それにしても耕地に水が無いのは不便であると感じた。



〔6月下旬の様子〕



7月中旬、炎天下の中、追肥を行った。約180本であるがきつい作業だった。7月末になるとほぼ全体に鮮やかな緑色の実が付いてきた。この頃になると枝がモサモサしてくるので定期的に整枝を行い、主茎も伸びているので紐を付け替えたり増やしたりして固定し直した。中には病気なのか生育の遅いものや、枯れたものが2~3本出てきた。斑点病のようである。思い切って病気の枝を取り除いたら元気になってきた。しかし日によって元気がなく、しなっているものがあり気になってしょうがない。水が足りないのか、2日に1回は行くようになった。

稲は青々としており順調に生育しているようである。



〔7月下旬の様子〕



〔7月下旬の唐辛子で囲った田んぼの様子〕

8月上旬になると、実が赤くなるものが少しずつ出てきた。遠くから見てもチラチラ見え隠れする感じであり、ようやく唐辛子が順調に育っている実感が湧いてきた。しかし、このころから、アブラムシや蜘蛛が数か所取りつくようになった。蜘蛛の糸は枝や葉っぱをよじらせているので取り除き、中には自然に蟻がアブラムシを駆除しているものもあったが、念の為、防虫剤を散布してみた。すると、この前までしなっていた枝や葉っぱが元気になってくる。薬の効力とはこういうものなのかわからないが、無農薬で管理することは大変なことのように思えた。8月下旬になるとほぼ全体が赤くなってきた。もう収穫できそうなものもあるが、イノシシが出てくるまではできない。



〔8月上旬の様子〕



〔8月下旬の様子〕



〔8月下旬の様子〕



#### 4. 収穫時を迎えて

いよいよ収穫の時期がきた。病気で枯れてしまったものが約10本程度あったがすでに全体は成熟している。10月18日を予定日として待ち望んでいた。もうイノシシは来ないだろうと思っていた。ところが、収穫予定日間近にイノシシが出現した。共済組合、猟友会、役場農林担当等の検証では唐辛子で囲っていた田んぼの一段下にある田んぼに侵入した形跡があるとのことであった。



〔写真左部が侵入した田んぼ、左部が唐辛子で囲った田んぼ〕



〔イノシシの侵入の跡〕

このあと、唐辛子で囲っていた田んぼの刈取りが行われた。いよいよ収穫日を迎え農業委員と現地で合流した。すると唐辛子で囲っていた田んぼにイノシシの足跡を発見。侵入した形跡があった。まだ唐辛子は収穫していない。唐辛子の畝の付近を探ってみたが近寄った形跡がないことが解った。



〔イノシシの足跡〕



〔イノシシが少し掘った様子〕

既に、成熟しすぎているものもあったが、イノシシ避けを検証するにはやむを得ないところである。全員で株ごと引っこ抜き、約170本を回収、トラックに積みJAのライスセンターに行って摘み取り作業をすることにした。



〔収穫、搬入の様子〕



〔トラックに積み込み〕



## 5. 摘み取り作業及び乾燥

JAのライスセンターに到着し一斉に摘み取りを開始した。一房100個以上の実が付いている。芯を残さないように摘み取り、量も多い為、とてつもなく根気のいる作業である。これを仮に10a相当分収穫し摘み取るとなると気が重い。日本での唐辛子の国内自給率が低いことが解ったような気がした。相当大変な作業である。

農業委員に聞いたところ唐辛子の出来は上出来であるといっていた。約10人がかりで半日掛けようやく終了し、よしずの上に並べて乾燥作業を行った。収穫量は乾燥前で約50kgで3か月以上行い、乾燥後は約21kgであった。



〔摘み取り、乾燥の様子〕

## 6. 検証について

このたびはイノシシ被害のある田んぼを囲うように、又、株間を広く取った箇所と狭く取った箇所との違いを確認しつつ、イノシシが侵入しないかどうか検証するものであった。一時は囲った田んぼには入らないと思っていたが、幸い稲刈り後ではあったが唐辛子収穫前に侵入されてしまったことは事実であった。実のところ、農業委員の一人が所有する田んぼにもイノシシ被害があり、本人が畔に1m間隔で試しに植付してみたが、結果、突破し侵入されてしまった。

このたびの実証栽培では断定することは出来なかったが、唐辛子に寄り付かないことがなんとなく確認できた。株間を狭くし、まるごと囲ってしまえば侵入が阻止できるかもしれない。目隠し的な効果はあるような感触である。有害鳥獣駆除に関して、電気柵での防護が主流であるが維持管理が大変である。経費や労力も含め気軽に確実に駆除できるようなものがあればよいが。来年度は今年収穫した唐辛子を田んぼを囲うように畔や農道に埋めて試してみようと思う。

最後に、初めての経験であったが、作物を作ることがいかに大変なことか少し解った。安心安全な作物を供給していただいている農家の皆様には感謝の一言である。